

I 調査概要

- 1 目的 国の「スポーツ基本計画」を参考に策定された「横浜市民スポーツ推進計画」において、「する」「みる」「ささえる」スポーツの向上に向けて、運動・スポーツの実施率等、横浜市における現状を把握するため、市民を対象としたスポーツ意識調査を実施した。また、その結果を活かし、本市スポーツ施策における各種事業の現状と課題について考察し、課題解決に向けた新たな政策立案等につなげていく。
- 2 対象者
 - (1) 横浜市民スポーツ意識調査①
横浜市に居住する満20歳以上の調査機関登録者男女2,002人
 - (2) 横浜市民スポーツ意識調査②（障害のある方を対象とした調査）
以下、いずれかを満たす調査機関登録者合わせて200人
 - ア 横浜市に居住する満20歳以上の障害のある方本人
 - イ 横浜市に居住する満20歳以上の障害のある方と同居の家族
※同居の家族に障害のある方が複数人いる場合は、最も年齢の高い方を対象とする
- 3 抽出方法
 - (1) 住民基本台帳登録者（令和3年3月末現在）の性別・年代・居住区の構成比率を基に市全体の縮図となるようサンプル数を割付し、調査機関登録者の中から有意抽出法により抽出
 - (2) 調査機関登録者の中から有意抽出法により抽出
- 4 調査方法 インターネットによるアンケート調査
- 5 調査期間 令和3年10月4日（月）～10月18日（月）
- 6 回収状況
 - (1) 有効回答数：1,996件（ウェイトバック集計後2,002件）
 - (2) 有効回答数：200件

※各区の人口構成比と調査設計のサンプルの割当て件数（2,002）でウェイトバック集計を行った。
 ※表中に複数回答の記載がある設問は、比率の合計が100%にならないことがある。
 ※回答比率は、全て「n」を基準とした百分率で表し、小数点第2位を四捨五入している。複数項目を合計した数値についてはローデータの合計値を四捨五入しており、個別の数値の合計値とは一致しない場合がある。

II 結果概要

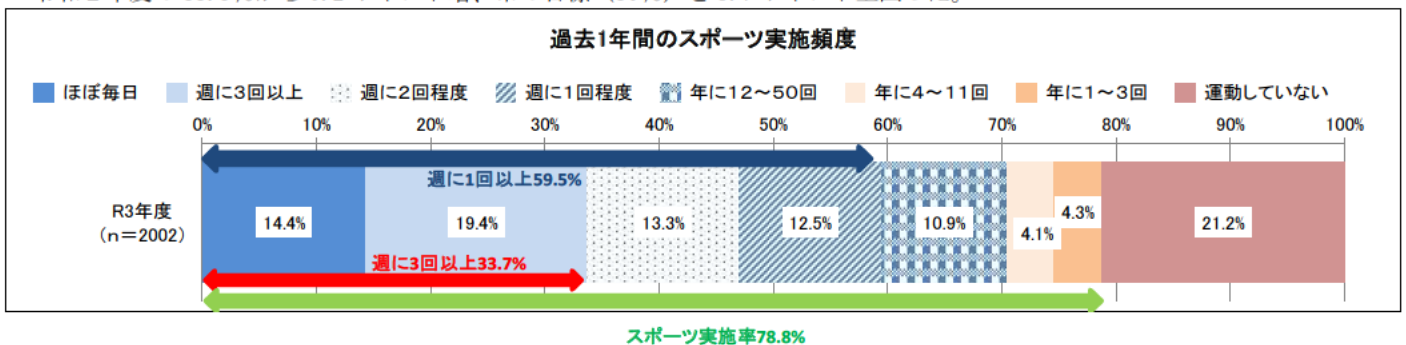
「する」スポーツ

●「週に1回以上」のスポーツ実施率は59.5%

令和2年度の64.5%から5.0ポイント減、横浜市民スポーツ推進計画の目標（以下、市の目標）（65%）には5.5ポイント及ばなかった。

●「週に3回以上」のスポーツ実施率は33.7%

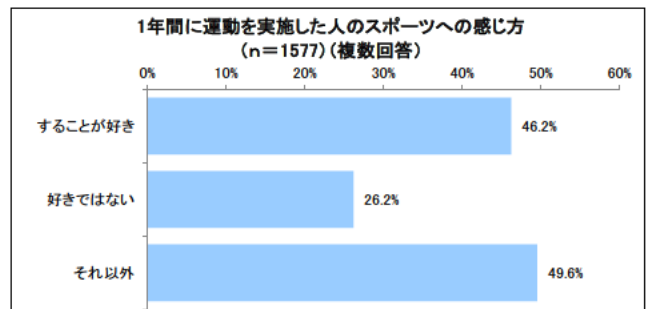
令和2年度の33.5%から0.2ポイント増、市の目標（30%）を3.7ポイント上回った。



◆過去1年間に運動を実施した人のスポーツへの感じ方

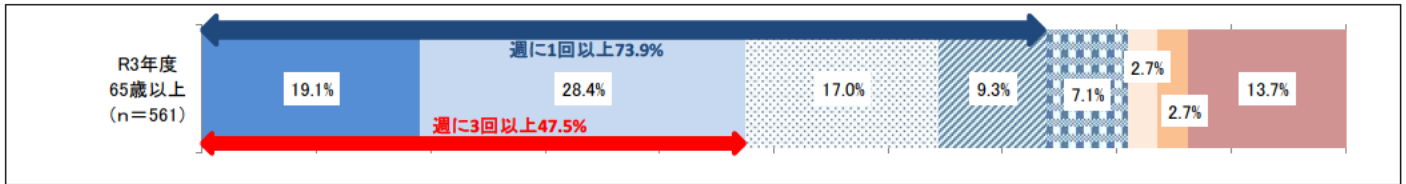
過去1年間に運動を実施した人のうち、「することが好き」が46.2%、「好きではない」が26.2%であった。この、好きではないが運動している層が、継続して取り組めるよう働きかける必要がある。

※「それ以外」は「観ることが好き」、「ボランティア活動など、支えることが好き」と回答した人を指す。



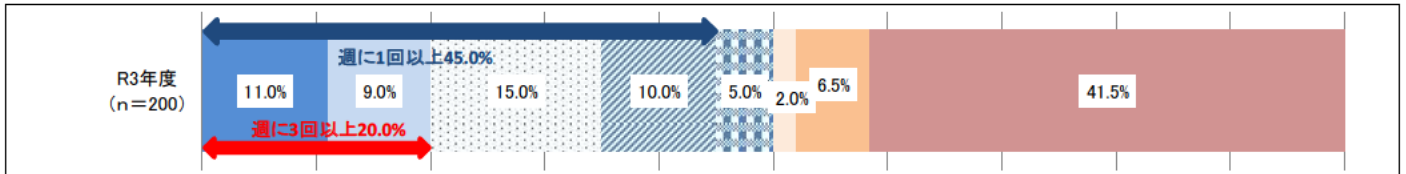
●65歳以上の「週に1回以上」のスポーツ実施率は73.9%

令和2年度の80.2%から6.3ポイント減、市の目標（70%）を3.9ポイント上回った。



●障害のある方の「週に1回以上」の実施率は45.0%

令和2年度の58.3%から13.3ポイント減、市の目標（40%）を5.0ポイント上回った。

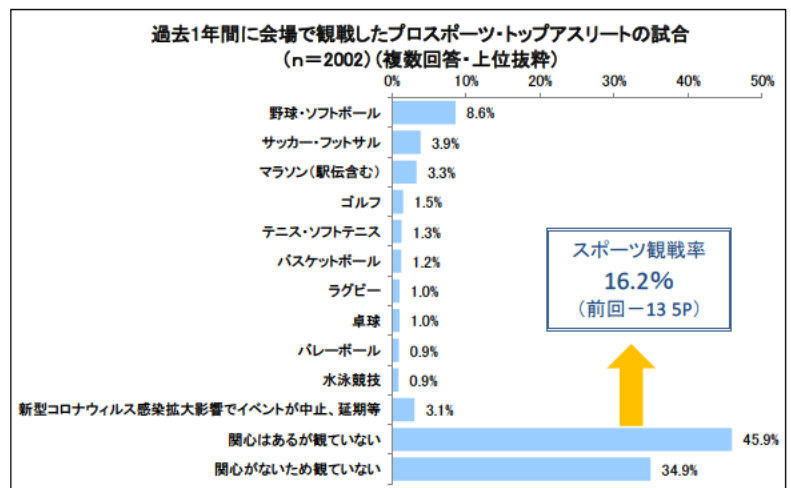


「みる」スポーツ

●過去1年間の会場での観戦率は16.2%

令和2年度の29.7%から13.5ポイント減、市の目標（50%以上）には33.8ポイント及ばなかった。

新型コロナウイルス感染症の影響で、トップスポーツの開催の中止・延期や観客数に上限が設けられていたことにより、観戦率に影響があったと考えられる。

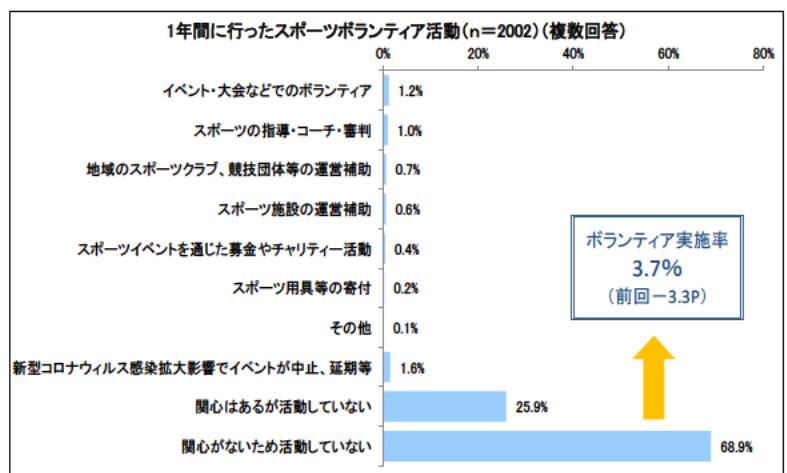


「ささえる」スポーツ

●過去1年間に行ったスポーツボランティア活動への参加率は3.7%

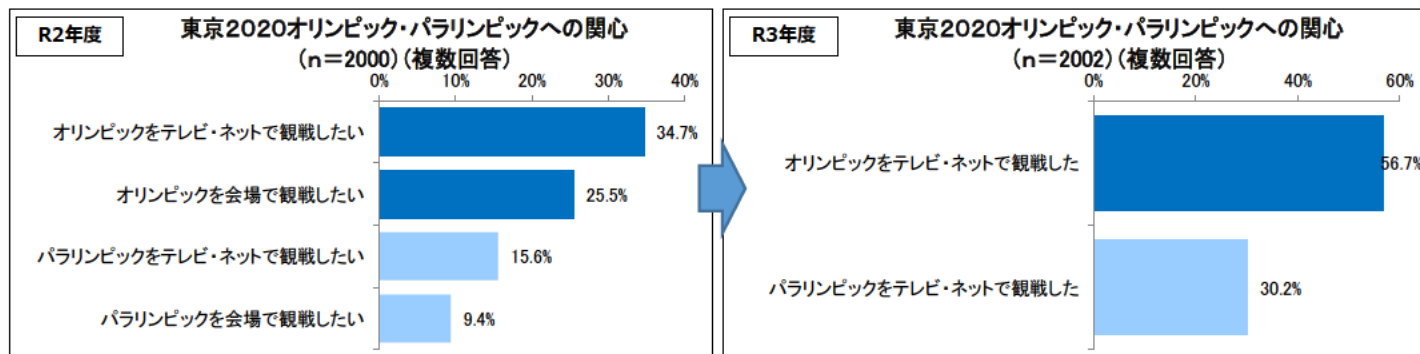
令和2年度の7.0%から3.3ポイント減、市の目標（10%以上）には6.3ポイント及ばなかった。

新型コロナウイルス感染症の影響で、スポーツイベント等が中止・延期になったことにより、参加率に影響があったと考えられる。



東京 2020 オリンピック・パラリンピックへの関心について

開催前（令和2年度）の「オリンピックをテレビ・ネットで観戦したい」は34.7%であったが、開催後（令和3年度）の「オリンピックをテレビ・ネットで観戦した」は56.7%であった。また、開催前の「パラリンピックをテレビ・ネットで観戦したい」は15.6%であったが、開催後の「パラリンピックをテレビ・ネットで観戦した」は30.2%であり、これは、開催前の「パラリンピックをテレビ・ネットで観戦したい」、「パラリンピックを会場で観戦したい」を合計した25.0%より高かった。開催が1年延期したものの、東京2020オリンピック・パラリンピックへの関心は高かったと考えられる。



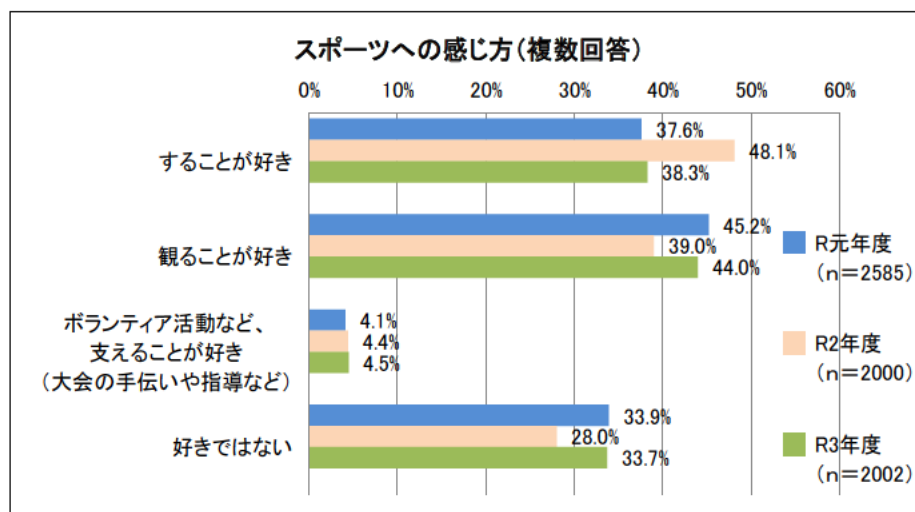
Ⅲ 令和元年度からの推移

令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言下での行動・外出の自粛や、公共施設・スポーツ施設の活動・営業自粛などが続いた中でのスポーツの行動・意識の変化について、令和元年度から令和3年度にかけての調査結果を比較した。

●スポーツへの感じ方の変化

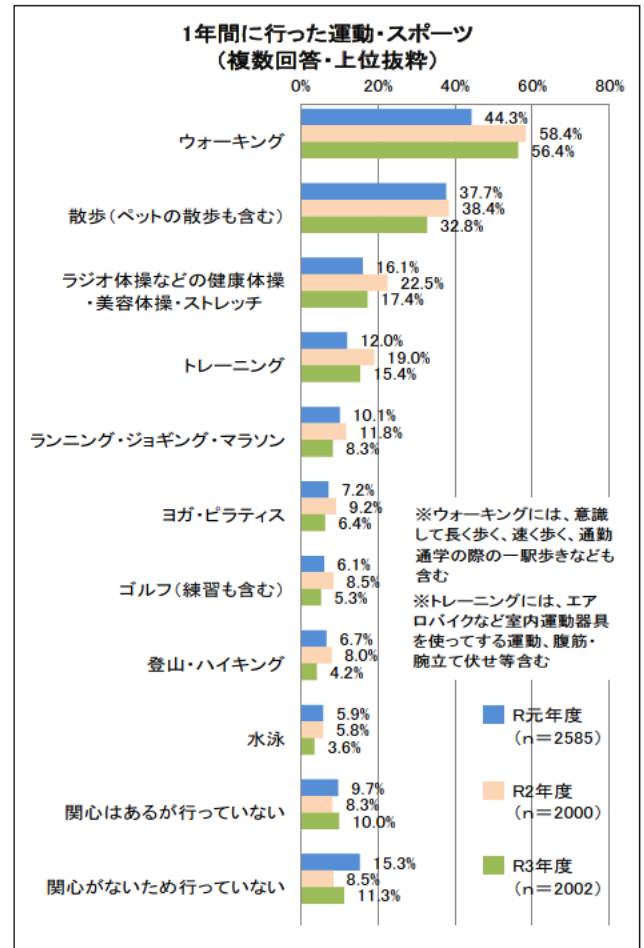
「することが好き」は令和2年度からは下がったが、令和元年度と比較すると同程度となっている。コロナ禍で高まったスポーツへの意識を定着させる取組を考えていく必要がある。

「観ることが好き」の割合は令和2年度にトップスポーツの中止等により下がったが、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催等により、令和3年度は上昇したと考えられる。



●過去1年間に行った運動・スポーツ

過去1年間に行った運動・スポーツの順位に大きな変動はなく、「ウォーキング」「ラジオ体操等」「トレーニング」など、気軽にできるスポーツの実施率は令和2年度よりも低下しているものの、令和元年度と比べるとやや上昇傾向にある。コロナ禍の中で時間的に少し余裕ができ、ウォーキングや健康体操、トレーニングやヨガなど気軽に身近でできる運動を始め、その傾向が続いていると考えられる。



IV まとめ

令和3年度は、「週に3回以上」のスポーツ実施率及び65歳以上の「週に1回以上」のスポーツ実施率、障害のある方の「週に1回以上」のスポーツ実施率が市の目標を上回った。しかし、週に3回以上のスポーツ実施率以外の全ての項目が令和2年度の結果を下回った。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、外出自粛や施設の営業自粛、スポーツ観戦やイベント等が制限されていたことなどは、会場での観戦率やスポーツボランティア参加率に特に影響が大きかったと考えられる。しかし、スポーツを「観ることが好き」の割合が上昇したのは、東京2020大会が開催されたことも少なからず影響があったと考えられる。

実施率については、週3回以上の実施率が昨年度と同水準を維持していることから、意識的にスポーツをする時間を確保し、継続しているコアなスポーツ実施者はスポーツをすることが習慣化していると考えられる。一方で、週1回以上の実施率が下がったのは、コロナ禍以前は普段の生活に追われて運動ができず、運動不足を感じていた層が、コロナ禍の中で時間的に少し余裕ができ、ウォーキングや健康体操、トレーニングやヨガなどをしていたが、長引く新型コロナウイルス感染症への慣れもあり、再び運動をしなくなったと考えられる。スポーツ実施に関する今後の政策を考える上では、このような浮動層に対してどのような働きかけを行っていくかが一つの鍵となりそうである。

V 報告書について

報告書(PDF)は、横浜市ホームページにて公開しています。報告書では、単純集計のほか、性別・年代別、性・年代別、居住区別のクロス集計結果等も掲載しています。詳細は報告書を御参照ください。

※今年度の結果については、調査会社変更に伴い、回答者の特性に違いが生じています。

【令和3年度横浜市民スポーツ意識調査報告書 概要版】

令和4年1月

編集・発行 横浜市民局スポーツ振興課

横浜市中区本町6-50-10

045-671-3583

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kanko-bunka/sports/>